

平成21年度第5回理事会議事録

日 時 平成21年11月11日(水) 14:00～

場 所 日本体育協会 理事・監事室

出席者 <理事>

森会長、佐治副会長、森副会長、監物副会長、岡崎専務理事、
泉常務理事、尾崎常務理事、板屋越、神尾、小林、斉藤、相良、
竹下、田中、常山、福島、不老、山本、渡邊の各理事

<委任>

岩名、坂本、篠宮、竹田、樋口、松田、御手洗の各理事
(議長に委任)

<監事>

片岡監事、中村監事

理事総数26名、うち出席19名、委任7名、計26名で寄附行為第32条に基づき理事会成立。

報告事項

1. 会務関係

(1) 平成22年度公営競技団体への補助金要望について (岡崎専務理事)

本年7月開催の第3回理事会で会長に一任されていた平成22年度公営競技団体への補助金の要望については、財団法人JKAに対する補助金要望額を平成21年度に対して、2百70万8千円、1.20%増の2億2千8百67万1千円とした旨を報告。

なお、スポーツ振興基金及びスポーツ振興くじの助成金については、引き続き森会長に一任とする旨を報告。

(2) 第64回国民体育大会(新潟県)における国民スポーツ推進キャンペーンPR活動について (岡崎専務理事)

開・閉会式会場をはじめとする各競技会場に、従来同様標語看板及びスポンサー各社の連名看板を掲出した。また、新潟日報をはじめとする地元メディア活用し、新聞広告を掲載するとともに、新潟駅構内のビジョンでのキャンペーンPR映像を放映した。さらに、PRブースにおける本会諸

事業の紹介、オフィシャルパートナーのPRブースの設置、国体後催県及び本会創立100周年の関連企画の紹介など、本会キャンペーン及び諸事業のPRを行った旨を報告。

(3) 平成21年度協賛企業について (岡崎専務理事)

去る6月10日開催の第2回理事会以降に変動があった「国民スポーツ推進キャンペーン」協賛企業について、1年間の協賛金が2千万円のランクである「オフィシャルパートナーA」で、6月の時点で内定を得ていた「株式会社ロッテ」と契約を締結した。9月に契約更新の「株式会社ローソン」とも継続契約をするとともに、新たなパートナーとして「サントリーホールディングス株式会社」と10月1日付で契約を締結した。

1年間の協賛金が2百万円のランクである「サポーターズカンパニーB」では、「ピー・シー・エー株式会社」との継続契約の合意に至らなかったが、6月の時点で内定を得ていた「株式会社日本航空インターナショナル」と契約を締結した旨を報告。

(4) 日本体育協会・日本オリンピック委員会創立100周年記念事業祝賀式典並びにシンポジウムの期日と会場について (岡崎専務理事)

東京で開催する総括シンポジウム、祝賀式典及びレセプションについては、グランドプリンスホテル新高輪を会場として、平成23年7月8日(金)から9日(土)の2日間で、7月8日(金)に総括シンポジウムを、7月9日(土)に祝賀式典及びレセプションを開催する。

また、東京での総括シンポジウムに先立ち、平成22年度に東日本(福島県)、中日本(京都府)、西日本(福岡県)の全国3会場で地域シンポジウムを開催する。

シンポジウムの共通テーマは『日本のスポーツ「これまで」と「これから」』とし、基調講演、パネルディスカッション、更に、レセプションを実施する予定である旨を報告。

(5) 日本体育協会・日本オリンピック委員会創立100周年記念事業寄付金募集について (岡崎専務理事)

寄付金募集については、去る6月開催の理事会及び評議員会にて報告・了承された後に開始する予定で進めていたが、創立100周年記念事業を日本オリンピック委員会と共催することが決定したことに伴い、改めて検討を加えることとなった。

これまで、準備委員会総務部会において協議を重ね、寄付金についても日

本オリンピック委員会と合同で募集をすることとし、趣意書については、去る11月4日開催の平成21年度第1回準備委員会で承認を得た。

主な変更点は、平成22年4月に立ち上げる日本体育協会と日本オリンピック委員会合同の実行委員会会長名で募集を行なうこと、募集期間については、当初、平成21年7月10日から募集開始としていたものを、平成22年4月1日からの募集開始とし、創立100周年を迎える平成23年の12月31日までの予定としたこと、加盟団体等の寄付金額の1口の単価を下げたことなどを報告。

(6) 平成21年秋の勲章・褒章受章者について (尾崎部会長)

去る11月3日に勲章及び褒章の受章者が発表され、本会推薦の勲章受章者として、日本サッカー協会元会長で、現名誉会長の川淵三郎氏が旭日重光章を、日本ソフトボール協会副会長の内田清氏が旭日双光章を受章された。

日本オリンピック委員会の推薦による受賞者は、ミュンヘンオリンピック及びモントリオールオリンピック金メダリストの塚原光男氏が紫綬褒章を受章された旨を報告。

なお、内田清氏は11月7日に急逝された旨を併せて報告。

2. 国民体育大会関係 (泉委員長)

(1) 第64回国民体育大会(新潟県)の終了について

第64回国民体育大会は、「天皇陛下御在位20年記念慶祝行事」として、9月26日(土)から10月6日(火)までの11日間、開会式に天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、新潟市他計19市2町2村で、47都道府県から選手・監督21,760名、本部役員1,066名の計22,826名が参加して行われた。会期前実施競技の水泳競技会は、9月9日(水)から13日(日)に開催された。

大会には、水泳、陸上、ソフトボール競技会などに、我が国を代表するトップアスリートが多数参加し、各競技会場において熱戦が繰り広げられた。

今大会より、「山岳」、「水泳の飛込種目・シンクロ種目」に新たに中学生の参加が認められ、計14競技に473名がエントリーした。

各競技会は、会場地を始めとする関係者の方々のご尽力により、特に大きな事故もなく、無事終了した。総合成績は、新潟県が男女総合成績及び女子総合成績で総合優勝を果たし、天皇杯・皇后杯の両賜杯を獲得した。

県民参加をねらいとして実施した「デモンストレーションとしてのスポ

ーツ行事」には、22行事に6,844名が参加。

また、日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が実施したドーピング検査は、競技会検査で16競技159検体、競技会外検査で16競技50検体、延32競技（実質24競技）209検体で実施。検査結果は、日本アンチ・ドーピング機構からの報告があり次第、本会ホームページで公表する。

その他、クレ射撃競技会は、日本クレ射撃競技会における役員人事問題に関連し、条件付で競技会の開催を認めることとしていたが、対立する双方の代表者から条件履行を誓約する書面が指定期日までに提出され、当初予定通りに競技会を実施したこと、新型インフルエンザの感染拡大防止に、本会、文部科学省、新潟県の主催3者で取り組み、大会期間中33名にインフルエンザA型の診断が出されたが、競技会中止などの事態には至らず、全競技会日程を終了した旨を報告。

その後、板屋越理事（新潟県体育協会副会長）から、大会終了に伴う謝辞が述べられた。

（2）第64回国民体育大会(大分県)ドクターズ・ミーティングの終了について

今回で16回目となるドクターズ・ミーティングは、国民体育大会開会式前日の9月25日（金）に新潟市において、都道府県帯同ドクター代表等142名が参加し開催された。

「新型インフルエンザ発症時の対応」及び「インフルエンザとドーピング禁止薬に関する注意事項」などの実践的な情報提供が行われた他、スポーツ医療に関する法律的な問題をテーマとしたパネルディスカッションが行われ、参加者にとって有意義な研修となったことを報告。

3. 国際交流事業関係 （渡邊委員長）

（1）第17回日・韓・中ジュニア交流競技会の終了について

森正博副会長を団長とする11競技の選手・役員など合計246名を、去る8月23日（日）から29日（土）までの7日間、韓国・全羅南道木浦市に派遣。競技会は高いレベルでの競技が行われ、各国参加者による交流プログラムも含め、大会の目的を果たせた旨を報告。

（2）第13回日韓スポーツ交流事業 成人交歓交流（受入）の終了について

本年度で13回目となる日韓スポーツ交流事業の成人交流は、去る10月16日（金）から22日（木）までの7日間、宮崎県において11競技に韓国選手団194名を受け入れて実施した。

本交流事業では、宮崎県で同時期に開催された第22回全国スポーツ・レクリエーション祭への参加を中心としてスポーツ交流の行った他、受入地の宮崎県の競技団体及び会場地市町村関係者との親善交流等に成果をあげ、大変有意義な交流事業となった旨を報告。

4. 日本スポーツマスターズ関係 (森副会長)

・日本スポーツマスターズ2009富士山静岡大会の終了について

本年で9回目となる「天皇陛下御在位20年記念 日本スポーツマスターズ2009富士山静岡大会」は、去る9月16日(水)から18日(金)にゴルフ競技、9月18日(金)から22日(火・祝)までの5日間にはゴルフ競技以外の競技が静岡県下8市・35会場にて開催され、全13競技に全国から7,644名という本大会史上最多の選手・監督が参加し、熱戦を繰り広げた。

開会式は、高円宮妃殿下ご臨席のもと、従来同様、参加者の親睦・交流を目的に行われ、選手、監督関係者約700名が参加するとともに、日本スポーツマスターズの広報・PRにご協力いただいているシンボルメンバーも参加し、華やかな雰囲気で行われたことを報告。

その後、斉藤理事(静岡県体育協会会長)から、大会終了に伴う謝辞が述べられた。

5. 生涯スポーツ推進事業関係 (森委員長)

(1) 平成21年度「体育の日」中央記念行事「スポーツ祭り2009」の終了について

平成21年度「体育の日」中央記念行事「スポーツ祭り2009」を、去る10月12日(月・祝)に本会及び文部科学省、日本オリンピック委員会など、日本のスポーツ界が一丸となって、国立スポーツ科学センター及び味の素ナショナルトレーニングセンターにて実施した。

オープニングでは、子ども体力向上キャンペーン事業の一環として、全国の小学生から募集したポスター及び標語の優秀作品の表彰式を行い、計12名が表彰された。

当日は、レスリングの吉田沙保里選手をはじめ、多くのトップアスリートの協力を得、参加・体験型のスポーツ教室や、国立スポーツ科学センター及び味の素ナショナルトレーニングセンターの諸施設を活用した各種イベントに計12,856名が参加、「体を動かすことの楽しさと、日常生活の中で、運動やスポーツに親しむ習慣を身につけることの重要性」を参加者及び全国に伝える良い機会となった旨を報告。

(2) 第22回全国スポーツ・レクリエーション祭の終了について

「皆来んね 笑顔まんかい 神話の国で」をスローガンに、去る10月17日(土)から20日(火)までの4日間、宮崎県において、都道府県参加種目18種目に7,300名、フリー参加種目6種目に3,700名が参加。会期中は天候にも恵まれ、各会場では熱戦が繰り広げられるとともに、参加選手は競技だけでなく、地元の方々との交流を深めるなど、盛会裏に終了したことを報告。

その他

(岡崎専務理事)

1. 古橋廣之進日本水泳連盟名誉会長及び日本オリンピック委員会顧問のお別れの会について

8月2日にローマで急逝された古橋廣之進さんのお別れ会が、去る10月14日に、本会、日本オリンピック委員会及び日本水泳連盟の3者共催により、青山葬儀所で開催され、当日は、古橋さんを偲び、国内外を問わず、スポーツ界をはじめ、各界から、約2千名以上の参列があった旨を報告。

2. 天皇陛下御即位20年奉祝事業について

天皇陛下におかれては、11月12日に御即位されて20年をお迎えになる。

この慶賀すべき年を国民全体でお祝いするため、全国各地、各界において、奉祝行事の実施が予定されており、本会としても、第64回国民体育大会、日本スポーツマスターズ2009富士山静岡大会を奉祝行事として実施した。

去る11月2日、御即位20年奉祝運動を全国各地で推進することを目的に設立された「天皇陛下御即位20年奉祝委員会」から本会に対し、全国各地で実施されている奉祝行事等への寄付金協力及び同委員会代表世話人への就任について依頼があった。天皇陛下におかれては、国民体育大会をはじめとする各種スポーツ競技会にご臨席いただくなど、本会をはじめとするスポーツ界に多大なご協力をいただいていることに感謝をするため、森会長との相談の結果、奉祝行事への協賛として50万円を寄付すること、同委員会代表世話人への就任は、森会長が天皇陛下御即位20年奉祝国会議員連盟会長に就任していることから、森正博副会長が就任することとなった旨を報告。

意見

斉藤理事 東京都が2020年オリンピック・パラリンピック大会招致に再度立候補の意向を示したことは、我が国スポーツ振興を推進する上で、大変意義があると考え。広島市、長崎市も立候補の意向を表しているが、日本でオリンピック・パラリンピック大会を開

催することの意義を考えると、東京都と広島市の共同開催なども視野に入れた大会招致について、日本体育協会としてもイニシアチブを取っていただきたい。

森会長 国際オリンピック委員会のルールでは、開催地は一都市と定められている中で、複数都市による開催の実現性について検討を進める必要はある。今後、日本オリンピック委員会とも協議する際に、ご意見はお伝えしていきたい。

以上の諸報告をいずれも了承後、次回理事会は、平成22年1月13日(水)15時から開催し、会議終了後16時から記者クラブとの懇親会を行なうことを確認し、16時閉会。